

6月13日。この日をもって49期バスケ部は引退しました。

この3年間を振り返ってみると、大変だったこと、苦しかったことなどつらい時間が多かったと感じます。しかし決して忘れることのない最高の時間でした。

1年次終わりから新型コロナウイルスの影響を受け、今までのような部活動ができなくなり、49期として活動できた時間は半年ほどしかありませんでした。部活動禁止、声出し禁止、大会の無観客開催。今まで私たちが大切にしてきたことが奪われ、チームとして一つの目標に向かっていくのが難しくなりました。

慣れない環境のなかで上を目指していく難しさ、今まで当たり前のように過ごしてきた何気ない日常のありがたさ、全員で部活動を行う楽しさ、たくさんの方のことを肌で感じました。結果としては、インターハイ予選ベスト32で終わってしまい目標のベスト16、8には届きませんでしたが、結果以前に、コロナという脅威に耐えながら最後まで戦い抜き、仲間たちと笑顔で引退できたことが一番の誇りです。

私が皆さんに伝えたいことは「自分のやりたいようにやれ!」ということです。いま誰のために部活をやっていますか?先生に怒られないようにとか、失敗しないようにとか、自分の本来の姿を忘れていませんか?

部活は指導者のためにあるものではありません。自分たちのためにあり自分たちでつくっていくものです。そして楽しむものです。だからこそ自分のために自分のやりたいことをやってほしいと思います。しかしそんなこといっても難しいですね。なぜなら「誰をコートに立たせるのか決めるのは選手ではない」からです。決めるのは指導者である先生です。そのため試合に出るにはどうすればよいか考えたときに、先生に好かれる、怒られないようにするにはどうすればよいか。このようなことを考えてしまうと思います。私も同じ経験をしたことがあるのでよくわかります。

自分の中で試合に出ることが目標なら、先生の目を見て一生懸命話を聞き、言われたとおりに動けば良いと思います。そうすればおのずと試合に出るということに近づくでしょう。しかしそれが自分のやりたいことでしょうか。多くの方が言う「試合に出ること」は、「自分のプレーをコート上で表現すること」ではないでしょうか。そのために自分の武器を見つけ、それを磨き、周りに認められ、コート上に立つ。そのための朝練、昼練がチーム練習ではなく、自主練なのであり、先生、外部コーチという指導者がいるのです。そして、指導者や練習とは話を聞いていれば上手くなる、こなししていれば上手くなるものではなく、自分が上手くなるための手段です。練習中、試合中にたくさんの方を言われると思います。それが正しいとも限りません。それを聞き、行動に移すのかどうかを判断するのはいつでも自分です。間違った選択をしても自分の中で強い意志を持ち、貫き、結果として良い方向へ向けば、結果論かもしれませんが、正解なのではないでしょうか。自分のやりたいことを見つけ

たときにうまくいかず、落ち込み、周りからやめたほうがいいと言われることがあるかもしれませんが、しかし周りの反応なんて関係ありません。その時に自分がどうしたいか、引退を迎えたときにどんな姿でいたいかを考え、自分で選択することが大切です。自分なりの答えを見つけてください。

さて、今までたくさんの方のことを書かせていただきましたが、何を感じたのでしょうか？長々といろいろ書いていますが、簡単にいうと「頑張るしかない！」ということです。努力しなければ何も始まりません。スタート地点に立つ権利さえもつかめないのです。自分より上手なプレイヤーに勝つためには、何倍もの努力が必要です。その努力が結果として表れるのか表れないのかわかりません。しかし努力することによって、今しか創ることのできないものを創造し、最高の高校3年間になることは間違いありません。

正解はありません。人それぞれでいいと思うのです。自分なりに考え、答えを導き出し、突き進んでほしいと思います。

田中先生、飛澤先生、茨木先生、今までご指導ありがとうございました。最後に佐藤先生。私は先生に出会って人生を変えていただきました。今の自分があるのも、ここまで成長できたのも佐藤先生がいたからです。本当にありがとうございました。無事49期として、最高の終止符を打つことができました。

最後まで応援してくださった保護者・関係者の皆様、初音さん、様々な偉大な先輩方、こんなキャプテンについてきてくれた後輩たち、何より支えてくれた仲間たち。本当にありがとうございました。並びに東大和を応援してくださったすべての方々にも心より感謝申し上げます。今後とも東大和の応援をよろしくお願いします。

49期キャプテン 谷部史和

